

2024年4月吉日

BIPROGY 研究会
静岡支部 会員各位

BIPROGY 研究会
静岡支部事務局

2024年度 研究活動 参加者募集のご案内

拝啓 日頃よりBIPROGY 研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。BIPROGY 研究会では、会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題や社会課題等をテーマとし、テーマに関する知見を取得するのみに留まらず、課題克服の仮説を立て検証し、研究活動成果を報告書として取り纏め発表していただく、研究活動を行っています。

ビジネスヒントの発掘や企業の枠を超えた人材育成、異業種交流の場としてご活用ください。活動にあたっては、BIPROGYグループ社員のアドバイザーや運営メンバー、事務局によるフォローをしっかりと行って参ります。

研究活動参加へのお申し込みをお待ちしております。

敬具

1. 研究活動の目的：

- ・異業種交流(社外の年齢や経験、役職の枠を超えたメンバーとの交流)
- ・人材育成(課題解決、仮説検証、チームビルディング、プロジェクトマネジメント、ファシリテーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーション、コミュニケーション能力の向上)
- ・業務外分野探求への挑戦(失敗を恐れずチャレンジできるプロジェクト)
- ・活動成果の社外への発信(発表会や Web 掲載を通して参加者・参加会社の知名度アップ)

2. 研究テーマ：

グループメンバー参加者で決めていただきます。

テーマ選定にあたっては、テーマに関しての知見取得に時間を費やし、ストーリーを組み立てられなくならないように、グループ内で工夫していただき、アドバイザーの助言を得ながら進めていただきます。

※ご参考までに「研究テーマキーワード」をご提示いたします。

3. 参加資格：

BIPROGY 研究会会員企業(企業の方であればどなたでも参加いただけます。)

4. 参加費用：

- ① 本年度研究活動費として1企業あたり、 ¥20,000 を申し受けます。

- * 参加人数に係わらず、1企業あたり、¥20,000 となります。
- * 参加メンバー確定後、「連絡責任者」へ参加費用をご請求させていただきます。
尚、請求書送付先が連絡責任者と異なる場合は申し込みの際に連絡欄にご記入願います。

② 活動のための移動交通費、宿泊などの経費は参加者の負担とさせていただきます。

5. 申し込み方法: <https://form.biprogy.com/public/seminar/view/31268>

上記、BIPROGY 研究会Webにアクセスいただき、お申し込みください。

- お申し込み開始日 : 2024年 4月15日(月)
- お申し込み締切日 : 2024年 5月15日(水)

6. 研究活動の運営について:

- ① グループ活動は1チーム 5 人程度とさせていただきます。
- ② 基本的にはグループに参加された方の自主活動で日中の業務時間内での会議が中心となりますのでご了承ください。
また、BIPROGY グループもアドバイザーとして皆様の活動を支援いたします。

7. 活動期間と今後の予定:

- ① 本年5月より2月末まで(発表会を除く)月2回程度の会合を見込みます。
活動のテーマにもよりますが、活動自体の回数、時間を多く費やすことは決して良いことではありません。
上司の方へのお願いになりますが、参加者が活動しやすいよう、社内調整やバックアップにご協力頂きます様お願い致します。
- ② 発足式及び第1回目会合:
全体発足式:2024年5月29日(水)午後
全体発足式終了後、静岡グループ発足式・第1回会合を開催いたします。
詳細はグループ成立後に改めてご連絡いたします。
- ③ サマースクール:
各グループリーダー、サブリーダーを対象に 8月下旬から9月上旬にグループの中間報告をしていただくサマースクールを開催予定です。
- ④ 活動報告書提出:
来年1月下旬に活動成果を「研究活動報告書」として提出していただきます。
* 研究活動運営委員の皆様により、活動報告書の表現力・構成力はもとより、
実用性・有効性、先進性・独創性・独自性などの面を考慮して査読審査をさせていただきます。
- ⑤ 発表会:
来年3月7日(金)に「研究活動成果発表会」としてグループメンバー以外の方々に向けて発表をしていただきます。

8. お問い合わせ先:

〒420-0851 静岡市葵区黒金町 11-7 大樹生命静岡駅前ビル 4 階
BIPROGY(株) BIPROGY 研究会 静岡支部事務局 (担当:河原、新山)
TEL: 050-3132-2914(直通)
e-mail: shizu-box@biprogy.com

9. その他:

ご報告いただいた研究活動成果(研究活動報告書、プレゼン資料その他資料を含みます。)の著作権は著作者に帰属するものとします。但し、著作者は、BIPROGY 研究会が情報発信する機関誌や Web サイトにおいて、著作者の研究活動成果の掲載・配布に関する権利(個人名・会社名・所属先の公開を含みます。)を BIPROGY 研究会に無償で許諾するものとします。

この時期、会員様のご担当者の変更手続きが間に合わずに以前に登録された方へお送りしてしまう場合がございますが予めご容赦いただきますようお願いいたします。

以上

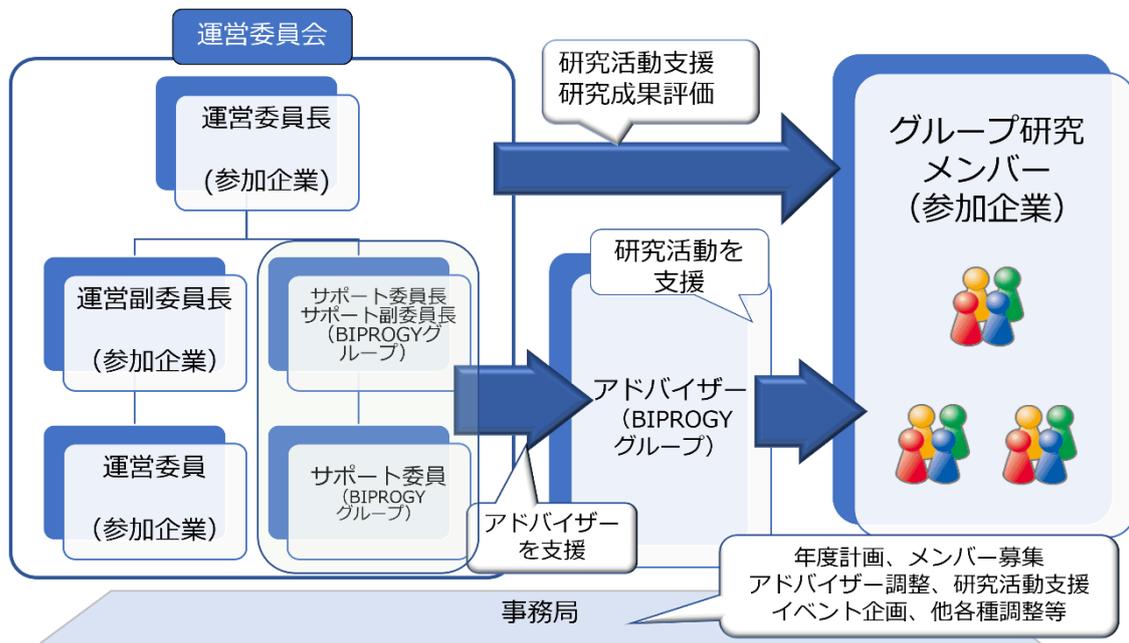
キーワード	推薦する理由ならびに活動内容(案)
地方創生	少子高齢化が進む中で、各地方の強みを引き出す形での DX やローコストオペレーションが求められる。今後の地域活性化や効率的な地方事業運営が出来るように地方行政や地域活動の一助として IT 活用を考えていく。
IT の民主化	労働生産人口不足は、確実にやってくる。その解決策としては、IT は必須であり、IT の力を駆使して、今まで人が行っていた作業を変革する。しかしながらIT人材不足課題から誰もができる訳ではない。もっと簡単にユーザーが使えるITサービスを提供する必要が生じてる。
2025 年の崖	経済産業省の「DX レポート ～IT システム「2025 年の崖」克服と DX の本格的な展開～」で提示された言葉 ①既存システムのレガシーシステム化 ②新しい技術に対応できない ③IT 人材不足・システムの維持管理費が高騰する ④サイバーセキュリティ等のリスクの高まり ⑤各種システムのサポートが終了 ⑥IT 市場の急速な変化 2025 年の崖を BIPROGY 研究会の目線で整理し、乗り越えるための工夫を提案する
SNS の誹謗中傷抑止・止	SNS を利用する際の誹謗中傷の抑止、防止を目標にデジタルリテラシーの向上を促進するプログラム(教育方法、システム)を研究する。
コミュニケーション	近年、社会にはオンラインでのチャットや会議ツールなどを使用したコミュニケーション手法が普及している。しかし、複数のツールを使い分ける負担や、リアルタイム性による負担、テキスト文によるコミュニケーションは効率的に機能しているのか不透明にも思える。チャットや会議ツールの活用で、企業をはじめとした様々な組織を効率良く機能させるために、必要な要素を見えるようにしてみてもどうか。
ローコード/ノーコード	昨今、ウォーターフォール型のシステム設計・構築は敬遠されがちであり、現場部門を含めて色々なサービス・システム・インタフェースを迅速に利用・提供することが求められている。Bigデータの有効活用、AI技術との融合を視野に、【マルチプラットフォーム】的な基盤上での小回りの利くシステム・ツールの構築を実現する。
(生成) AI 技術の利活用	AI 技術の一つである、『Generative AI』の業務への有効活用を探りたい。生成 AI では、何が出来て何が不得意なのか？有効利用できるのか？を探る。あるいは、少し将来を見据え、『AGI(汎用人工知能)』の可能性を探るのもいいかもしれない。
人材育成	『働き方改革』の影響もあるのか？各企業においては、【人材育成】も大きな課題となっている。利便性が高まっていくいっぽうの環境において、人はどんどん『受動的』な感覚・行動になっていくと思われ、『能動的』に動ける人材が減っていくのではないかと危惧感がある。今一度、原点に立ち返って【人材育成】について、どうあるべきか？議論したい。
IT 新技術の浸透	現在、見ない日はないほど、新技術ワードが蔓延っている。 (AI、DX、IoT、5G、6G、X-Tech、ローコード開発・ノーコード開発、XR、メタバース、NFT 等) これらの技術はビジネスやエンターテイメント、医療、教育、不動産、スポーツなど、様々な分野で活用されている。一方で、ローカル地域や高齢者等、まだまだ浸透していない、又は、使いこなせない方々も多い。 そのような、IT 弱者に対して、状況の把握と活用方法のアピールを研究する。
DX とその先にあるもの	DX が業務効率化だけで終わっていないか。IT 化しただけで満足していないか。DX の本来の目的は「レガシーな仕組みからの脱却と組織文化・風土の改革」であるはずだが、そこにたどり着けないのはなぜか。取り組み開始時の組織合意形成も含めたアプローチをどの様にすれば本来の目的にたどり着けるか。

キーワード	推薦する理由ならびに活動内容(案)
SaaS	最近、業務要件を整理して業務設計する方法から、SaaS が提供する業務サービスに合わせて業務設計を行う時代に入りました。今後、業務設計をどのように進め、ユーザ部門を業務サービスに適応させるかを探求していきたいと思います。
ペイメントサービス	Pay サービスとは、キャッシュレスで決済を行える電子決済サービスのことで、現在は一般的に広く普及し、種類についても主に「QR/バーコード」「非接触 IC 方式」の方式があります。また、決済についても「即時決済」「後払い」など複数の方法があり、使える店舗も様々です。非常に便利なのですが、現金払いと比較した際の客側・店側双方のメリット・デメリットについて比較しても面白いかと思えます。
サイバーレジリエンス	サイバーレジリエンスとは、システムに対し、正常な稼働を阻害する通信やサイバー攻撃などのマイナスとなる条件下において、それらに耐え、障害が発生した場合、そこから回復し、適応する能力のことです。 2023 年 10 月 10 日に発生した某銀行ネットワークの障害によって、多くの銀行で振込ができないなどの大規模障害が発生しましたが、このような障害に対する耐障害性とこれまでの障害対策やセキュリティ対策を超えた回復力をもつテクノロジーソリューションについて研究対象としてもらいたいと思います。
DAO(分散型自律組織)	従来の組織とは根本的に異なっており、Web3.0 が本格化する時代において盛り上がる組織形態として注目されている。DAO(分散型自律組織)に関して、その特徴やメリット・デメリットを調べて、新たなコミュニティとして実践しながら検証する。
オープンバンキング	金融機関が保有する顧客の金融情報を、顧客の同意のもと、第三者のフィンテック企業や他の銀行と共有することを指す。この共有は API(Application Programming Interface)を通じて行われ、新しい金融サービスやアプリケーション開発の促進に繋がる。金融業界のイノベーションの中心となっており顧客体験の向上や新しいビジネスモデルの創出を深掘りする
GX(グリーントランスフォーメーション)実現に向けた DX 戦略	2023 年 2 月に「GX 実現に向けた基本方針」が閣議決定された。その中で今後 10 年を見据えたロードマップについて各分野別の事例が示されている。その事例を参考にしながら、GX をテーマとして IT 部門の戦略的な関与の在り方(関わり方や変革の方向性)を思考し、GX 実現に向けた DX 戦略活動につなげていく。
AI を活用した開発	生成 AI を活用したシステムコード開発をどうすれば効率よく行うことができるか。また、その際の要件の投入方法、品質の担保方法、テスト方法については検討が必要であるため。
地域の情報提供サービス	新しい場所での生活(転勤者等)での役立つ情報の提供、地域独自の情報の提供。

(添付)

■ 研究活動を支える体制

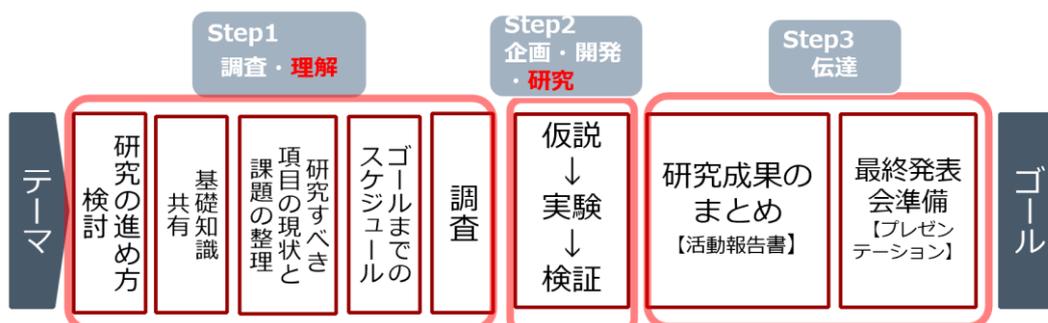
- 皆様の研究は、運営委員、サポート委員、アドバイザー、事務局が支援



■ スケジュール



■ 研究活動とは



(添付)

サマースクールの様子



発表会の様子

